

校だよ バンクーバー補習授業校

2025年度 第20号 2025 11 29

高等部 国語科 学びの紹介・

二つの文化のあいだで揺れ動く心と、未来へつなぐ想い ~短編ドキュメンタリー『Instruments of Beating Heart』をめぐって~

本校高等部の国語科では、山崎エマ監督による短編ドキュメンタリー『Instruments of Beating Heart』(2025年アカデミー賞短編ドキュメンタリー部門候補作品)を鑑賞し、感じ たことや考えたことを対話しながら深め、最終的に文章としてまとめる学習を行いました。

短編ドキュメンタリー『Instruments of Beating Heart』は、イギリス人の父と日本人の母 を持つ山崎監督が、ご自身のアイデンティティと幼少期の小学校経験への問いを出発点として 制作された作品です。東京の公立小学校で150日間にわたり子どもたちの生活を取材し、その 姿を丁寧に記録しました。作品には、日本の学校文化に根付く「集団」、「協調」、「責任」そし てその中で育まれる「個の成長」という要素が、23分間に濃縮されて描かれています。

※ 本ドキュメンタリー作品の基本情報は、メディア公開資料を参考にしています。

授業の中では、高等部の生徒たちが、自らの経験と重ね合わせ、「日本文化をどう受け止め るか」、「カナダと日本、二つのルーツの中でどのように自分を作っていくのか」といった内面 的な課題について、真剣に話し合う場面が見られました。

今回、彼らの仕上げた作品の中から、本人の承諾のもと、学年・氏名は伏せた形で、異なる 文化を行き来する中で揺れ動く心情に触れたひとつの作品を紹介します。

の

ようになりました。そんな賞賛の声のム」が世界各地で起こり、日本の文化 うました。そんな賞賛の声の中にも、日本の教育や名地で起こり、日本の文化や日本人の道徳性が高、現地校とは全く違っていて驚きました。最近でを鑑賞し、いろいろなことを感じました。カナダ